笠岡匠（かさおかたくみ）

腕に確かな技術を持つ人がいる。その腕で作られるものが人々を魅了する。
このコーナーでは、そんなキラリと光る技を持つ「匠」たちを紹介します。

第十回　折紙　廣井良江さん（笠岡）

花車

鮮やかな色とりどりの紙を自在に操り、無我の境地で作品を作り上げていく廣井さん。やがて二次元の色紙は、命を吹き込まれたかの如く、新しい姿へと変貌を遂げます。

東京で保母をしていた頃から、折紙に親しんでいたという廣井さんが、本格的に折紙に取り組み始めたのは、夫の郷里である笠岡に戻られた平成元年のこと。「喫茶店で偶然に見かけた一羽の鶴に深い感銘を覚え、躊躇なく折紙の世界に足を踏み入れた。」そうです。

「折紙の魅力は、一枚の紙からいろいろなものができること。そして作品に合った紙を探すことも楽しみです。」という廣井さんの作品に使われる色紙は、色・柄・厚み・硬さなど様々で、時には高級な和紙も使うそうです。

「今では、日本折紙協会の研究会を通して知り合った、海外を含め多くの折紙仲間と交流を深めています。新しい作品に取り組んで完成したときが、一番の喜びを感じる瞬間です。」と嬉しそうに語ってくださいました。

竹喬美術館の光彩 47

樹と雲

小野竹喬　作
昭和48（1973）年頃
23.7×31.8cm

「わたしが、よく木を描くのは梢を描きたいからです。若木の、生命力、あるいは大樹の根のたくましさ、この自然にひかれますね。それは万葉のおおらかさを感じるからです。自然と人が一体となって生きる。その姿、そのこころ、それは本当に美しいと思います。」（竹喬のことば）

夕暮れて鮮やかに染まる空も光を残して浮かぶ雲も、それぞれに輝かしく眼を引くが、竹喬の興味は梢の方にあるという。たしかに、地味な色をした幹や枝が、背後の鮮やかな空にも負けずに画面にきちんと場所を得る。自然と人が一体となって生きるそのこころを、竹喬は美しいものという。

展覧会と行事のご案内

特別陳列
梅原藤坡（うめはら　とうは）
11月18日（土）～1月14日（日）

ギャラリーコンサート
11月25日（土）
18:00開場／18:30開演
入場料…500円
※チケットのお求めは竹喬美術館まで

〒714-0087
笠岡市六番町1-17
☎63-3967
ホームページ
http://www.city.kasaoka.okayama.jp/0013/0001.html

今月の表紙

実りの秋を迎え、10月18日に北川小学校で稲刈りが行われました。

これは北川公民館が地区住民から借りている水田を利用し、毎年5年生が田植えから収穫までの米作りを体験しているもので、この日は34人が参加しました。

大きく育ち頭を垂れた稲を、かまを使って丁寧に一株一株刈っていき、「おもしろい」、「かんたん」などみんな笑顔で収穫を楽しみました。

係から

11月3日は文化の日。一口に文化と言っても多種多様ですが、私の一番の好みは食文化です。この時季はガザミなど海の幸と、山の幸も豊富に収穫され、市内の青空市や鮮魚市も活況のようです。

また、最近よく話題にのぼるのが笠岡ラーメンです。テレビや雑誌で紹介されたお店もあるそうで、かしわのチャーシューといりこだしのスープが好評です。

こうした追い風を受けて、笠岡商工会議所青年部が「らーめんマップ」を作りました。人気店のほか笠岡諸島の飲食店も掲載され、一段と食が進みそうです。（中）

中野素嗣　土屋武之

発行日／平成18年11月1日
発行／笠岡市役所
編集／企画政策課
〒714-8601 笠岡市中央町1-1
☎69-2110
印刷／㈱国輝堂　☎67-5111

PRINTED WITH SOY INK ※この広報は再生紙を使用し地球環境にやさしい植物性大豆油インキで印刷しています。
R100 古紙配合率100％の再生紙を使用しています